

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400642		
法人名	サッポロ・ライフ株式会社		
事業所名	グループホーム虹の家琴似		
所在地	札幌市西区八軒3条東2丁目2番12号		
自己評価作成日	令和3年3月10日	評価結果市町村受理日	令和3年4月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0170400642-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0170400642-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和3年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様と向き合い、そして受け入れて最後まで本人本位の生活が送れるように支援させて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅街の中にありJR八軒駅から徒歩5分、琴似駅からも徒歩10分と便利の良い場所に建つ事業所である。近くには散歩に適した公園や病院、スーパー、商店街があり、事業所の隣の喫茶店にはコーヒー好きの利用者が訪れている。法人は施設的な考え方を避けるために1ユニット9人の運営にこだわりを持ち、家庭的な環境の中で日々の暮らしを支えている。ホーム長や職員は向上心を持って運営に取り組んでいる。屋内はセントラルヒーティングで冬も暖かく安全に過ごしている。共有部分に観葉植物を置き、職員は利用者へ寄り添い一緒に水やりをしている。グッピーを飼育し産卵させることも利用者の楽しみとなっている。階段は両側に手すりを取り付け、体力低下予防としての昇降運動に適している。今までの暮らしでマージャンや将棋の好きな利用者が、孤独感を感じる事のないように継続の支援をしている。外出制限の期間中は、インターネットショッピングで利用者が好きな服を選び購入できるよう支援をすることで喜ばれている。甘味が好きな利用者には事業所で手作りの餡入り白玉だんごやベビーカステラなどを職員と一緒に作っている。家族へは毎月「虹の家便り」を発行しているほか、訪問制限の期間中でもホームページから「虹の家通信」で利用者の生活状況が確認できるようにし、安心できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、スタッフルームから見える場所に掲示し共有実践している。	玄関とホールの入口にケア理念、運営理念、社訓、目標を掲示しており、職員の入社時に理念の説明をしている。職員は日々の業務で時に立ち止まり、理念のように利用者の生活を支えているかの確認をしながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外気浴や散歩時に挨拶を交わしている。	現在も感染症予防のため外出の自粛期間であるが、一時的に解除になった時期には、事業所隣の喫茶店にコーヒーを飲みに行っている。散歩時に近隣住民に会ったときは挨拶をしており、町内会の資源回収で地域に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームを理解して頂く為に、ホームの見学を随時受け入れている。他事業者及び介護サービスについても説明させて頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し行事報告や利用者様の状況等を報告し構成員の方々より評価、助言などを頂きサービス向上に活かせるようにしている。	前年度は町内会副会長、副部長兼消防団員、地域包括支援センター、家族、事業所の参加で運営推進会議を行っていた。今年度4月より書面会議として事業所内で行っているが、議事録に地域包括支援センターからの意見も取り入れ、メンバーと家族へ送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所の生活保護担当者と連絡を取り協力関係を築けるようにしている。	保護課の職員は生活状況確認のため定期訪問している。管理者会議は中止となっているが、感染症関連の連絡をもらった際は、西区の代表へ事業所から質問をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化に向けた指針を策定し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化に向けた指針を定め、身体拘束ゼロ推進委員会を行い、身体拘束についての考え方や基本方針、体制について話し合っている。夜間の職員が一人になる時間帯のみ施錠している。	身体拘束適正化に係る書類を整備する意向があるので、それらの書類等の整備に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い虐待防止に努めている。		

グループホーム虹の家琴似

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居後も不安や疑問があれば何度でも説明させて頂き理解、納得して頂けるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時等に近況報告などを行い、意見や要望を伺っている。	「虹の家だより」の発行と、家族限定のパスワード管理でホームページから閲覧可能な「虹の家通信」が読める。感染症対策を整えて1日に2組、1回10分として面会をした時期もある。家族の意見は個人記録に記入し職員は共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	総務部長が現場に赴き職員の意見等を聞いている。 また、申し送り等で上がった意見、提案を反映させている。	職員は業務で役割を持っており、食事の発注、買い物担当や誕生日のメッセージカードを作るなど、適材適所に得意な分野で活躍し運営に反映させている。職員意見から発案し、利用者が楽しめるよう、おやつ作りの取り組みをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新たに夏季、冬季休暇を設けるなど環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できるようにしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所から入居相談等を受けている。		

グループホーム虹の家琴似

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の訴えにしっかりと耳を傾け、信頼関係を構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学の段階で家族の不安や要望に耳を傾け信頼関係を構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族から話を伺い必要としている支援を見極めるように努めている。また、他のサービス利用が望ましい場合など助言している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に様々な事を行い楽しい時間を共有できるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来訪時等に普段の様子を報告している。また、ご家族の要望、協力により外出している方もおられる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会という形にとらわれず電話で話すことができるように支援している。	現在は外出制限のため自由な散歩や、前年度のような買い物ができないが、利用者の服を買うため、一緒にインターネットで画面から好みを選んで購入するなどの取り組みをしている。家族、友人との電話ができるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーションを通して他者と楽しい時間を共有して頂けるように努めている。		

グループホーム虹の家琴似

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された利用者様に必要な物を届けるなどしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動などから希望、意向の把握に努め本人本位の生活が送れるようにしている。	希望の出たフライドチキンをクリスマスに出したり、かりんとうを買いに行く目標を歩行訓練と組み合わせ、独歩で店舗まで買いに行くなど、利用者ごとの希望や意向を検討し可能な限り実現している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から話を伺い生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に残したり、連絡ノートに記載したりして利用者の状態を把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送り時等に意見交換を行い介護計画を作成している。	職員全員で検討し、身体状況や課題を分析し、本人の望ましい生活像や家族の希望要望を計画に盛り込み介護計画を作成している。アセスメントシートはセンター方式に移行中である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に実践・結果を記載し気づきや工夫を個人記録に記載して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の要望に応じて柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームにて訪問理美容を受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療により体調管理している。体調に変化があった場合は報告し指示を頂いている。	月2回提携医の訪問のほか、毎週訪問看護師が来ている。受診時の状況により、家族には説明や投薬変更の連絡をしている。往診と受診の結果を個別の「医療記録」に記入している。精神科へは職員も家族と同行し医師へ説明をしている。	

グループホーム虹の家琴似

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護時に様子を報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には担当医、当施設から情報提供をしている。また、早期退院ができるように病院関係者、家族と情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を作成し支援に取り組んでいる。	利用契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、さらに終末期において「看取りに関する指針」の説明と同意書を交わしている。看取りが出来る体制になっているので、本人と家族の意向を取り入れた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し全ての職員が対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を定期的に行っている。また、水害避難計画を作成した。	今年度5月の日中想定火災訓練において書面での誘導訓練、2月には夜間想定火災訓練を実施している。災害備蓄品のリストに必要数量と賞味期限等の記載もあり、現在不足分は追加補充をしている。	次年度は火災以外を想定した訓練の実施と感染症予防に対応した災害備蓄品の追加、避難場所までの経路の確認を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	しっかりと理念を理解し声掛けも意識し行っている。	個人的な内容は居室で話をしている。気になる言葉かけがあった場合は管理者が注意している。個人記録類は他者の目に触れぬ場所で保管している。	不適切ケアや接遇等の内部研修に臨む意向を示しているため不適切ケアや接遇等の内部研修に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望により食事のメニューを変更したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースを尊重し過ぎて頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ネット通販等も利用しご自身に好きな洋服を選んで頂いたりしている。		

グループホーム虹の家琴似

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを考慮し調理法を変更したり、盛り付け等を一緒に行っている。	栄養バランスのある献立で調理している。季節の行事食や手作りおやつ、テイクアウトで本人の好物なども提供している。利用者も食事の作業に携わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の希望によりココアやコーヒー、ゼリーなどを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態に合わせてスポンジを使用したり定期的な訪問歯科受診をしている方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め声掛けトイレ誘導している。	24時間介護記録と月単位の記録表に排泄状況を記録して個々の状態を把握している。誘導が必要な利用者は本人のパターンやタイミング、本人自らの訴え等に応じ、排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操などの運動、腹部マッサージを行い便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前でも午後でも本人の希望により入浴できるように支援している。	土曜日は予備日とし、それ以外の曜日に基本午前の時間帯での対応であるが、本人の意向等に応じ柔軟に支援している。入浴を拒む利用者へは無理強いをせず清拭で対応する事がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣などに合わせ自室で休息を取ったり、言動などから休息を促したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一覧表を作成し理解できるようにしている。特に薬剤変更の場合は服用後の症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみなど出来ることを行っている。また、ぬり絵、麻雀やトランプなどを出来るように支援している。		

グループホーム虹の家琴似

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得ながら外出できるように支援している。また、日常的に散歩や外気浴を行っている。	今年度は感染対策を講じ、近隣への散歩や事業所前ベンチでの外気浴、個別支援でドラッグストアへ買い物に行くなど、可能な範囲で対応している。通院帰りにドライブし旧宅を見学した利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グッピーの飼育、花や観葉植物を育てており家庭的な雰囲気の中で生活して頂けるよう工夫している。	共用空間は明るくホールの出窓には観葉植物や花がおかれ熱帯魚も飼育されている。利用者の状態に合わせて居場所作りを行い、他者との関係性に配慮している。エレベーターはあるが、両サイドに手すりがある階段を使用し登り下りする利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファで過ごしたり、他利用者の居室を訪室したり居心地の良い場所があるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に好きな写真を置いたり家族からのプレゼント飾ったりしている。	居室内にはクローク、パネルヒーターが備え付けられ、馴染みの家具や調度品が持ち込まれている。家族の写真や位牌、プレゼント品など大切な品々が置かれている。本人が安心できるような環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段を使用できる方には使って頂いたりしている。		

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム虹の家琴似

作成日：令和 3年 4月 8日

市町村受理日：令和 3年 4月 12日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束適正化に係る書類の整備。 身体拘束適正化研修などの実施日の記録しかない。	身体拘束適正化研修の実施日及び研修内容の記録を残す。	職員の身体拘束適正化研修の研修内容を記録に残す。 身体拘束ゼロ推進委員会で話し合った内容を記録に残す。	1か月
2	35	火災を想定した訓練しか行っていないかった。 感染症予防に対応した災害備蓄品を把握していないかった。	火災以外を想定した訓練の実施。 感染予防に対応した備蓄品の確保。	水害や地震などを想定した訓練を行う。 災害備蓄品リストに感染予防対策に必要な物品を追加して確保・管理する。	6か月
3	36	不適切な声掛けが行われていた。	内部研修を行い再発防止に努める。	不適切ケアや接遇等の内部研修を行う。	1か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。